

## 水路部創立130周年記念号の刊行に当たって

海上保安庁 水路部  
企画課長 八島 邦夫

水路部は、明治4年(1871年)9月12日に兵部省海軍部に水路局として設立され、平成13年(2001年)で130周年を迎えました。そこで130周年を記念して水路部技報第20号を「130周年記念号」として刊行することになりました。

水路部では、創立以来、我が国における海上交通の安全確保に必要な水路図誌の編集刊行、そのための水路測量・海洋調査・天文観測などの業務にあたるとともに、その一環として各種の調査研究や技術開発を行ってきました。その成果は、業務に反映されるとともに、「水路部研究報告」として取りまとめられ、公表されています。しかしながら、中には、取りまとめに時間を要するものや、本格的論文にはまとめるにいが、記録として残して公表すべき成果も少なくありません。このため、本「水路部技報」は、水路部が行う調査研究や技術開発成果の中から速報として、また、中間的な研究・技術開発ノートとして記録し、公表すべき成果を掲載し、昭和58年(1983年)3月から刊行してまいりました。

この10年間には、平成6年の国連海洋法条約の発効、平成7年の阪神・淡路大震災、平成9年のナホトカ号油流出事故、また、平成12年には三宅島の噴火などがあり、歴史に残る数多くの事案が発生しました。水路部では、持てる調査能力を最大限発揮して、このような喫緊の事案に対処してきました。一方、この間、水路部に要請される業務も多岐に渡るようになり、従来の業務に加え、日本の管轄海域確定、海底地殻構造や海域火山の調査、沿岸防災情報の整備、海洋環境の保全など、調査目的が多様化するとともに、また、電子媒体での海洋情報の収集提供など情報化も急速に進展しました。

このため、水路部においては、このような変化に対応して研究開発・技術向上や業務の効率化に取り組んできましたが、今後の新しいニーズに応え、海洋情報を的確に提供するため、平成14年4月に「海洋情報部」として再編されることになりました。新しい組織になりましたが、新しいニーズや時代の要請に応えるために、更なる研究開発・技術革新が必要であり、また、調査・研究成果の公表は、欠くことの出来ない業務であります。本「水路部技報」が、今後もその役割を果たし、海上交通の安全や海上防災、海洋環境保全に役立てられることを期待します。

(平成14年3月)